

佐賀新聞 2010(平成22)年3月31日(水) 県内文化欄 文化時評2010 【美術】

県内文化

美術

野中 耕介

久しぶりにゆっくりとした休日を得て、一路、広島へと向かった。「村上潔IIあきびん」展 日本画・布絵・染付(広島市福屋八丁堀店)を見るためである。その経歴と独特の趣のある画風、それに絵本の中の「こ」とは遊び、洒落の面白さ

というパッチワークの「布絵」(絵本原画)や、動物を伸びやかなタッチで描いた染付の器等が所狭しと並ぶ。堅固な絵肌、美しく澄んだ色彩の日本画を一目見て、画家が素材の扱いに手馴れた、きわめて高度な画技の持ち主だと分かるのだが、絵本の絵にもそれは存分に生かされている。村上IIあきびんこの絵本は、愛らしさ、ユーモア、そして絵画としての芸術性

自分の中に眠る宝石

が印象的で、一度作品をじかに見てみたかったのである。

村上潔は尾道市に生まれ、東京藝術大学で日本画を学び、日本画家として発表を続けながら、還暦を迎えた2008年、あきびん(こ)の名で絵本作家としてデビューした。初めての絵本『したのこ(あきびん)』(くもん出版)で日本絵本賞を受賞している。

を絶妙なバランスで兼ね備えた「画家による」絵本であり、私が魅かれた理由もそこにあるのだろう。会場では村上IIあきびん、教育者というより生粋の画家といっただけの風情の人であった(ちなみに偶然にも、村上は私の絵の恩師と同窓であるとのこと)。

こつこつと見せてあげられたらなと思う。例えば先日、県立美術館で卒業制作展を開催した佐賀北高校芸術コースの学生さん等、感じるものが多いのではないかと。インテリアとしての作品を作ることだけが、美に生きることではない。そして、自分の中に眠る「宝石」、才能を引き出す技術と「こ」の大切さ一痛いな村上の作品と画業は、そのことを力強く教えてくれる。(県立美術館学芸員)

7

さが文化

2010年(平成22年)3月31日(水曜日)

佐賀

会場には日本画とともに、自り(ミシン)で縫ったと

は、洋画家の野見山暎治の勧めによるという。「長年

な村上の作品と画業は、そのことを力強く教えてくれる。(県立美術館学芸員)

文化時評 2010